

ガリレオ・ガリレイの指を見た イタリア

花の都フィレンツェを彷徨していると思いがけないものに出会う。市の中心地区（チェントロ）は歴史がぎっしりとつまり、いつの間にか頭の中は中世の時代の街中をさ迷っているかのような錯覚に陥るから不思議だ。

朝からウフィッツ美術館を見学し疲れ果てどこかで休みたくなった。近くのアルノ川岸に出て、とある建屋を見上げるとガリレオ博物館とある。あのガリレオかと思いつつふらりと入った。

入り口で日本人夫婦に出会い黙礼すると、イタリア語に堪能なご主人が話しかけてきた。ここは以前科学史博物館で長いこと休館していたが、ガリレオ博物館としてリニューアルオープンした。

ガリレオの望遠鏡も興味深いだろうが、ここにはガリレオの指が二本あるので必見ですよと告げられ、ちょっと気味が悪いが興味をそそられた。



ガリレオの胸像



ガリレオ博物館内の天球儀



館内にはガリレオが天体観測に使用した歴史的に価値のある望遠鏡や、400年前の世界最大の天球儀を始めとする中世の頃の科学器具がずらりと並んでいる。



ガリレオの指二本

フィレンツェのサンタ・クロチェ教会にはイタリアの著名人が数多く葬られているが、ガリレオは天文学の父と称され多くの業績を残しここに眠っている。

ガリレオ・ガリレイはピサで誕生した（1564年2月15日～1642年1月8日）。父は貴族階級である。ガリレオは最初ピサ大学で医学を学ぶも中退した。

大学を卒業後1589年からピサ大学で数学や天文学の教授をつとめている。また科学分野の仮説を実験で証明していく方法を確立した人物でもある。天文学の分野では望遠鏡を使い月面のクレータ、木星の4つの衛星、さらに太陽の黒点などを次々発見するなど大きな業績を残した。

ガリレオが家庭教師を務めたメジチ家のコジモ2世が、トスカーナ大公となると人々が“ガリレオ衛星”と呼びならわしている木星の衛星を「メジチ家の星」と命名した。

望遠鏡は1608年にネーデルラント（＝現オランダ）で発明されたが、ガリレオは倍率をあげるなど改良を加え天体観測をおこなっている。その結果ギリシャのアリストテレスが唱えた月は球体

大学を卒業後1589年からピサ大学で数学や

とするこれまでの定説を、クレータの存在から完全な球体ではないと覆した。

ピサの大聖堂に入ると高い天井からランプがつり下がっているが、多くの観光客はそれを見上げカメラに収めている。ガリレオはこのランプの揺れるのを見て、紐の長さが同じ場合振れが大きくても小さくても往復にかかる時間は同じとする（等時性）いわゆる振り子の法則を発見したといわれているが、真実は法則を発見した半年後にランプが取り付けられたのだそう。



振り子の法則を発見したと逸話のあるランプ

またピサの斜塔から重量の同じ大小2種の物体を落とし二つが同時に着地する落体の法則を実証してみせた。これは後に万有引力で名高いアイザック・ニュートンの落体運動研究のきっかけを作ったといわれている。



ガリレオの墓

親交のあったケプラーの地動説を支持するなどしたために、自身は異端審問で苦しむが、異端審問で地動説は放棄すると書かれた文面を読まされたが「それでも地球は動く」と呟いたエピソードはよく知られているところである。

ガリレオの晩年は異端審問、失職、最愛の娘を失う、さらに失明するなど不幸の連鎖であった。偉大な天文学者は78歳をもって生涯を閉じた。